

特定非営利活動法人子どもの居場所〇Z

1 事業実施の成果

◆子どもの居場所事業

支援していた子どもが成長し、保護者として乳児を連れて居場所を利用し始めている。また地域の大人も立ち寄ることが増えてきており、多年齢交流が活発になりつつある。地域コミュニティとしての認知度が上がってきていることが伺える一方で、乳幼児と小中学生が同じ場所に居ることや信頼関係の築けていない大人の出入りによる安全面の不安も出てきている。

1) 居場所の提供

- ・平日の利用者数は 1～5 名程度で推移している。
- ・ネグレクト傾向や困窮を理由にした不登校の子ども利用が多かった。

2) 対面相談

- ・困窮、子どもの不登校、離婚問題など多数の相談が寄せられた。
- ・DV 避難案件が 3 件あり、宿泊先や短期の逗留先、家財などの支援が必要になった。近隣にはシェルターがなく、行政の支援も利用条件が合わないため利用を断られている。

◆こども食堂

1 回の利用者数が開設当初は 40～50 名だったが、本年度は 50～70 名となっている。利用者数の増加でお米の使用量が増えたが、予算が追いつかず開催回数を減らさざるを得なかった。食堂、パントリー共に利用者は多子世帯が目立ってきている。

1) こども食堂の利用について

- ・昨年度と比べて、利用者数は延べ 261 名増加である。
- ・物価高騰のため、子育て世帯の食卓は品数が減り、コメ不足により米食の回数が減っているようである。こども食堂では、野菜不足を懸念し、お惣菜を子どもが食べやすいよう工夫をし、バランスのとれた食事を週 1 回でも取ってもらえるよう努力を続けている。
- ・お米が不足し、政府備蓄米の配布支援を受けている。さらに、2025 年 4 月より月 4～5 回開催していたこども食堂を月 3 回に開催回数を減らしている。

2) フードパントリー

新規の利用者が増える一方で、経済的に安定し利用しなくなる人も出始めた。コロナ禍による経済的ダメージがようやく終息してきた感がある。新規の利用者は 3 人以上の多子世帯が多く見られた。これは食堂利用者にもみられる傾向である。

< 当事業年度活動実績 >

・子どもの居場所利用者延べ数	約 720 名
・こども食堂開催回数	47 回
・こども食堂利用者延べ数	約 2730 名(保護者等を含む)
・食糧支援件数	約 130 件
・食糧支援量	約 1800Kg

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1 子どもの居場所事業	①子どもの居場所提供	通年	事業所	社員2名	地域住民 近隣市町村住民	197
	②対面相談					
2 子ども食堂事業	①子ども食堂開催	通年	事業所	社員5名	地域住民 近隣市町村住民	3,903
	②子ども食堂(出張)					
	③フードバンク・フードパントリー事業					
3 子どもを主体とした学習支援事業	①Eスポーツ体験	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし
	②プログラミング体験	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし
4 子ども及び子の保護者の自立支援事業	① 対面相談	通年	事業所	社員2名	地域住民 近隣市町村住民	0
5 子ども及び保護者の就労支援事業	①対面相談	実施なし	実施なし	実施なし	地域住民 近隣市町村住民	0